



…おっし!

だいぶ型が
安定してきたな…

スランプ脱却か…?

今日はこの辺りに
しておくか…

須藤先輩っ!

益荒男学園三年
空手部副主将 須藤

お疲れ様です!

型のキレイ、ようやく
戻ってきましたね!



ん…、ああ、
まあな！

ところでさ、佐藤…

石堂から聞いた話じゃあ、
メッチャ上手いらしい
じゃねえか！

ええっと…その…
「マッサージ」ってやつ？

お、俺にもやって
くんねーかなー？

最近の須藤先輩は、どこか練習に身が入っていないというか…ずっとソワソワしているような様子が気になっていた。





…そっかあ

“あの時”トイレで
石堂先輩のを
フェラした事…

ふう…ふう…
人生初めてのフェラ…
♥

先輩が言いふらし
ちゃったんだな…

俺は全然OKって言うか…
むしろウェルカムって言うか…
願ったり叶ったりなんだけど…

でも…
でも…

先輩は俺を体育マットの上に
仰向けに寝るように指示した。

…でもっ、
この体勢はっ…!!

ふー!

ふー!

あーやべえ、

興奮が収まらねえっ!!

す、須藤先輩…

ふー!

ふー!

さ、盛りがついた
熊じゃないんだからっ…!!



練習が終わったばかりの須藤先輩の股間はすごく蒸れていた。

俺はその匂いがむしろ心地よくて、先輩の股座に染みついた雄の匂いをここぞとばかりに堪能する。

ふー！

ふー！

んんっ！

ふーっ！
ふんっ

す…す…すい…

これが…

これが須藤先輩の匂い…♥



心臓バクバク
いってんぞ?

...おっ?
どうした、佐藤

先輩...だんだん
股間が大きくなって...

はあ
はあ...♥

お前、さては...

この状況に興奮してる
変態なんじゃねえの?

成程ね、そうか、
よおし...



おらっ!!

お前が待ちかねていた
勃起チンポだぜ!?

うわっ…
ヤバッ!!

す、すごい…
大きい!!

むいあ..

石堂先輩と
同じくらい…?

いや…それ
以上かも…

そして須藤先輩は、蒸れた金玉を顔面に密着させた。息苦しい中、必死で呼吸する度に、獣のような雄臭さで満たされる。

…おおう…
スッゲえ…

んん…

鼻先がチンポに擦れるだけでキモチいいぜ…

んんっ♡

んんー！

ん…

ああ…もうやべえよ…

早く…

クチン中にチンポ挿れてえ…

クチンっ！
クチンっ！
クチンっ！

「挿れたい」：先輩がそうつぶやくと、俺の口元をしっかりと捉えるように巨大な亀頭がゆっくり迫ってきた。

いくら俺が無類のチンポ好きだとはいえ…

や…
やばい…

こんなデカマラで喉奥を突かれたら…

正気じゃられないかもしれない…

正直言って恐怖だ…。この姿勢はいわゆる「種付けプレス」のポジション…須藤先輩は気の済むまでガン掘りするつもりだろう…

いよいよだ…石堂が
「極上のクチ」って
絶賛していた…

待ちに待った
念願の…

股の匂いに
クラクラする…

あ…あ…
せ、先輩の…

先走りが…

な…舐めた…
い…

マッサージ！…いや、
フェラチオッ…!!

恐怖心から中々クチを開けることができない…
でも須藤先輩の先走りを飲みたくて、身体が
勝手に欲しがってしまった。その瞬間…

先輩は全く躊躇することなく、俺の粘膜へ向かって、先走りが滴ったデカマラを完全に根本まで腰を沈めて深く深く掘った。

ああああッ!!

中すげえキモチいい
いいいい、やっべ♡



ああスツゲッ!!

雄臭い股座に体重を預け、巨大な肉棒は俺のクチを責め、パンパンに精子を蓄えた金玉は俺の鼻を塞ぎ、チンポに完全に支配された。

チンポ：ああちんぽっ!!
ちんぽがキモチいい♡

んんーッ!!

んんーッ!!





初めてのフェラの感触をじっくりと確かめるように、先輩の亀頭は刺激を求め、俺の喉奥でグリグリと色々な方向に向かって突いてくる。

ほっ

おっ

おほっ ♡

あぁーっ(こ)!!

っ(こ)っすっげーイイ ♡

おっ

ほっ

ほっ

散々弄られた俺の喉はすっかり開き、射精に向かってピストン運動を始めるであろう腰の動きに備えて、柔らかくチンポを包み込んだ。

グッ ♡
グッ ♡
グッ ♡
グッ ♡



ツ!!

ツガアあああああ
あああーツツ!!

おおおおおお
おおおおおーツツ!!

ツあああーっ!!
キモチいいツツ!!

中出し最高おおおーっ
おおおおおおおーっ!!

ツホオーツ!!

すんげえめっちゃ
キモチいいっ!!

マジ
たまんネエツ♥

ゲホツ!

ケホツ!

ハアッ
ハアッ
ハアッ

須藤先輩...
腰振り激し過ぎ...

こんな極上フェラ、
石堂なんか独り占め
させるかよッ!!

益荒男学園空手部のマネージャーとして、
また一人、入念なケアをしなければならぬ
先輩が増えてしまったようだ...

でも...嫌じゃ
ない...かも...





…おっし!

だいぶ型が
安定してきたな…

スランプ脱却か…?

今日はこの辺りに
しておくか…

須藤先輩っ!

益荒男学園三年
空手部副主将 須藤



お疲れ様です!

型のキレイ、ようやく
戻ってきましたね!



ん…、ああ、
まあな！

ところでさ、佐藤…

石堂から聞いた話じゃあ、
メッチャ上手いらしい
じゃねえか！

ええっと…その…
「マッサージ」ってやつ？

お、俺にもやって
くんねーかなー？

最近の須藤先輩は、どこか練習に身が入っていないというか…ずっとソワソワしているような様子が気になっていた。





…そっかあ

“あの時”トイレで
石堂先輩のを
フェラした事…

ふう…ふう…
人生初めてのフェラ…
♥

先輩が言いふらし
ちゃったんだな…

俺は全然OKって言うか…
むしろウェルカムって言うか…
願ったり叶ったりなんだけど…

でも…
でも…

先輩は俺を体育マットの上に
仰向けに寝るように指示した。

…でもっ、
この体勢はっ…!!

ふー!

ふー!

あーやべえ、

興奮が収まらねえっ!!

す、須藤先輩…

ふー!

ふー!

さ、盛りがついた
熊じゃないんだからっ…!!



練習が終わったばかりの須藤先輩の股間はすごく蒸れていた。

俺はその匂いがむしろ心地よくて、先輩の股座に染みついた雄の匂いをここぞとばかりに堪能する。

ふー！

ふー！

んんっ！

ふーっ！
ふんっ

す…す…すい…

これが…

これが須藤先輩の匂い…♥



心臓バクバク
いってんぞ?

...おっ?
どうした、佐藤

先輩...だんだん
股間が大きくなって...

はあ
はあ...♥

お前、さては...

この状況に興奮してる
変態なんじゃねえの?

成程ね、そうか、
よおし...

VA
VA...



おらっ!!

お前が待ちかねていた
勃起チンポだぜ!?

うわっ…
ヤバッ!!

す、すごい…
大きい!!

むいあ..

石堂先輩と
同じくらい…?

いや…それ
以上かも…

そして須藤先輩は、蒸れた金玉を顔面に密着させた。息苦しい中、必死で呼吸する度に、獣のような雄臭さで満たされる。

…おおう…
スッゲー…

んん…

鼻先がチンポに擦れるだけでキモチいいぜ…

んんっ♡

んんー!

ん…

ああ…もうヤベえよ…

早く…

クチン中にチンポ挿れてえ…

クチンっ！
クチンっ！

「挿れたい」：先輩がそうつぶやくと、俺の口元をしっかりと捉えるように巨大な亀頭がゆっくり迫ってきた。

いくら俺が無類のチンポ好きだとはいえ…

や…
やばい…

こんなデカマラで喉奥を突かれたら…

正気じゃられないかもしれない…

正直言って恐怖だ…。この姿勢はいわゆる「種付けプレス」のポジション…須藤先輩は気の済むまでガン掘りするつもりだろう…

いよいよだ…石堂が
「極上のクチ」って
絶賛していた…

待ちに待った
念願の…

股の匂いに
クラクラする…

あ…あ…
せ、先輩の…

先走りが…

な…舐めた…
い…

マッサージ！…いや、
フェラチオッ…!!

恐怖心から中々クチを開けることができない…
でも須藤先輩の先走りを飲みたくて、身体が
勝手に欲しがってしまった。その瞬間…

先輩は全く躊躇することなく、俺の粘膜へ向かって、先走りが滴ったデカマラを完全に根本まで腰を沈めて深く深く掘った。

ああああッ!!

中すげえキモチいい
いいいい、やっべ♥

ズッ
ズッ
ズッ

ああスツゲッ!!

雄臭い股座に体重を預け、巨大な肉棒は俺のクチを責め、パンパンに精子を蓄えた金玉は俺の鼻を塞ぎ、チンポに完全に支配された。

チンポ：ああちんぽっ!!
ちんぽがキモチいい♥

んんーッ!!

んんーッ!!





初めてのフェラの感触をじっくりと確かめるように、先輩の亀頭は刺激を求め、俺の喉奥でグリグリと色々な方向に向かって突いてくる。

散々弄られた俺の喉はすっかり開き、射精に向かってピストン運動を始めるであろう腰の動きに備えて、柔らかくチンポを包み込んだ。

ほっ

ほっ

ほっ

“ごっ”すっげーイイ♥

あー“ごっ”!!

おほっ♥

おっ

おっ

グッ♥
グッ♥
グッ♥
グッ♥



ツ!!

ツガアあああああ
あああーツツ!!

おおおおおお
おおおおおおーツツ!!

ツあああーっ!!
キモチいいツツ!!

おおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお

